米子水鳥公園 レンジャー通信

水鳥公園の指導員（レンジャー）によるさまざまな活動をご紹介します。

問米子水鳥公園（☎24−6139）

珍鳥情報の取り扱いにはご用心！

2020年3月20日に、ソリハシセイタカシギという珍しい鳥が現れました。このことを情報発信したところ、翌日から大勢のお客様が押し寄せました。

この鳥は国内に定期的に飛来する場所がなく、毎年日本のどこかに数羽飛来する程度の珍鳥です。米子水鳥公園では過去に1998年、2008年、2014年に飛来していて、今回で4度目となります。

今回注目を集めたのは、この鳥がネイチャーセンターの目前に3羽現れたことです。窓際から約20mの近距離で3羽も観察できることは大変珍しく、県内外から多くのお客様が集まりました。これまでも園内で珍しい鳥が現れると、広く情報発信をしてきましたが、こんなにも多人数が集まったことはなく、その反響の大きさに驚きました。

ネイチャーセンター前に現れた
ソリハシセイタカシギ3羽

ソリハシセイタカシギを
見に集まったお客様

このように、珍鳥の情報が広まると、県内外から大勢のカメラマンが押し寄せることがあります。水鳥公園は鳥を観察する施設ですが、園外の場合は地元の方の迷惑になる恐れがあります。そのため、米子水鳥公園では、園内以外に現れた珍鳥の情報は公開しないようにしています。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

米子水鳥公園統括指導員　桐原　佳介

美術館通信

若手作家支援展　「朝倉弘平 雲わく庭から」より

干支ハンカチシリーズ「イノシシハンカチ」原画《EAT EATEN》

会　期　3月6日（日）まで【水曜日休館】

当館の若手作家支援展では初のIターン作家である朝倉弘平（1983年生まれ）。2013年に東京から米子へ移住し、現在は大山町で制作に取り組んでいます。2018年には、家族で13か国を巡る世界旅行に出かけました。

本作は、旅行中のドイツで（朝倉も年男にあたる）2019年亥年の干支ハンカチの原画として描かれました。イノシシはいつも朝倉の自宅にやってきて畑の作物を食べ、庭を穴だらけにして去っていく。よく見るとこの画面のイノシシは「寄せ絵」で、ウサギ・蝶・竹の子など、自宅の庭に息づく動物や作物を組み合わせて描かれています。そんなイノシシは時にジビエとして人に食べられる…、朝倉はこうした「生命の循環」をテーマの一つにしています。

問米子市美術館（☎34−2424、FAX33−0679）

《EAT EATEN》2018年　水彩、色鉛筆、紙